

市内で観察できる動植物（千歳山～蔵王ダム）



ニッコウキスゲ

<ユリ科>

ニッコウキスゲといえば、大概の人は高山に咲いている植物と思われるかもしれませんが、置賜盆地から村山盆地にかけての海拔150mから300mの間の山麓地域にベルト状に自生しています。千歳山もその一部です。

（花期6月）



アカマツ

<マツ科>

千歳山の語源ともなったアカマツは、乾燥して表土の薄い土地を好みます。植物遷移の初期を担い、雑木林に次の世代を託します。千歳山のアカマツは、日常的に柴刈りや腐葉土用の枯葉集めをやらない現在、減ってきました。



オオバジャノヒゲ

<ユリ科>

ユリ科の多年草で、ジャノヒゲに似ていますが、葉の幅が広く、黒い実を付けるので区別できます。山形県内では、庄内地方や遊佐町や飛島に自生している植物ですが、千歳山や隣の戸神山、十五坊山にも自生しています。

（花期6月～7月）



ゲンジボタル

<ホタル科>

東沢地区では保護活動を行っており、馬見ヶ崎川上流の保護地区では、初夏になると幻想的に光を放ちながら舞い飛ぶ多くの個体を見ることができます。幼虫はきれいな川に生息しているカワニナという貝を食べて育ちます。

（出現時期6月上旬）

「山形の自然」より



ツマジロウラジャノメ

＜タテハチョウ科＞

成虫は岩場や崖に生息しており、なかなかその姿を見ることのできない蝶です。蔵王ダム周辺の崖などで、6月と9月の2回発生します。前バネの白い斑紋がよく目立ちます。幼虫はカヤツリグサ科の植物を食べます。

（出現時期6月～8月）



「山形の自然」より

カジカ

＜カジカ科＞

山地の溪流などの上流域に生息し、水生昆虫や小魚、底生生物などを貪欲に食べます。春に、水中の石の天井部分に産卵、ふ化するまでオスが守る習性があります。美味しい魚で、塩焼き、唐揚げ、佃煮などで食べられています。



「山形の自然」より

イワナ

＜サケ科＞

山地の溪流などの上流部で、水のきれいなところに棲み、冷水を好み、かなり標高の高いところまで生息しています。水生昆虫や落下昆虫、小魚などを貪欲に食べます。溪流釣りの対象魚として放流が盛んに行われています。



「山形の自然」より

カモシカ

＜ウシ科＞

里山から高山までの森林で普通に見られ、多くは1～2頭で生活しています。食べ物は植物だけで、樹木の葉が主な栄養源ですが、農作物や果実などを食害することもあります。国の天然記念物で、山形県の県獣です。



「山形の自然」より

ニホンザル ＜オナガザル科＞

普通は群れで目撃されることが多く、まれに1、2頭の離れザルを見ることがあります。山形市では奥羽山系の低山帯の森林が群れの主な遊動域ですが、しばしば農耕地にも出没して農作物に被害を与えることがあります。



「山形の自然」より

ハクビシン ＜ジャコウネコ科＞

一見タヌキやイタチに似ていますがジャコウネコ科の動物で、外来種とみられています。近年内陸盆地の低山帯や集落周辺で分布域を広げ個体数を増やして定着しています。畑作物や果実類を食害することがあります。



「山形の自然」より

イモリ ＜イモリ科＞

平地から1000mを超す山地まで生息しており、山形市周辺では普通に見られます。オスの尾は幅広く、先端近くで急に細くなりますが、メスの尾は先端まで徐々に細くなります。オスには繁殖期に青紫色の婚姻色が現れます。



写真提供: 築川堅

オシドリ ＜カモ科＞

山形県の県鳥で、オスは脇にある大きな橙褐色のいちょう葉型の羽が特徴で、主に山間部の溪流や周辺が林の湖沼に生息しています。冬は市街地の公園の池にも来る時があります。樹洞に営巣し、ドングリが好物です。

(夏鳥・漂鳥)



「山形の自然」より

アオジ

＜ホオジロ科＞

胸から腹にかけて緑色がかった黄色が目立ちます。平地の林や農耕地、公園などに生息し、木の枝先などの目立つところで、ゆっくりした調子で「チュッチン、ティーリューリー」と鳴きます。冬は暖地へ移動します。

（夏鳥・漂鳥）



「山形の自然」より

アトリ

＜アトリ科＞

冬鳥として各地の林や農耕地に渡来します。スズメよりやや大きく、「キョキョキョ」と続けて鳴き、飛びながらも鳴きます。草の種子を好んで食べ、ナナカマドの実も食べます。数羽から数百羽の群れを見ることも多い鳥です。

（冬鳥）